

第3章

新潟市教育振興基本計画（基本構想・基本計画）

- 1 基本構想 新潟市の教育が目指す人間像
- 2 基本計画（基本方針・基本施策）

1 基本構想 新潟市の教育が目指す人間像

本市は、国際拠点港湾である新潟港や拠点空港である新潟空港のほか、リニューアルされた新潟駅など人流・物流拠点としての機能を有する本州日本海側最大の都市です。

また、信濃川と阿賀野川をはじめとした大小の河川、ラムサール条約湿地である佐潟、福島潟や鳥屋野潟など多彩な水辺・里山といった自然豊かな田園地域が広がっています。

このように、都市と自然環境の互いのよさをいかした「都市と田園の調和」というまちの特性は、暮らしやすさをはじめ、様々な場面において本市の強みとなっています。

このような環境のもと、これまで本市の教育の大綱では、目指す姿として「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」と「生涯を通じて学び育つ、創造力と人間力あふれる新潟市民」を示し、その実現に向け、こどもたちの育ちや、市民の生涯にわたる学びを支えてきました。

学校教育においては、これからの社会で自信をもって自己実現していけることを育むため、学びをいかしたり、他者と協働したりしながら、課題解決や自己実現に向けて様々なことに挑戦し続ける教育活動を大切にしてきました。

社会教育においては、誰もが、いくつになっても、いつでもどこでも学ぶことができ、新たな自分を発見したり、生きがいを見つけたりすることができる環境づくりを行ってきました。また、自ら学んだ成果を地域でいかし、学びを継続していくことで、他者とのつながりを広げ、地域課題の解決や地域の活性化を推し進める人材の育成を進めるといった、循環型生涯学習を推進してきました。

このように、学校教育や社会教育において「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育み、主体的に物事を成し遂げることができる人材の育成に向け、「学・社・民の融合」のもと学校、地域、民間、社会教育施設、家庭が一体となって取り組めるよう施策、事業を展開してきました。

一方、少子高齢化による人口減少社会の到来やデジタル技術の高度化、交通網の発展によるグローバル化のさらなる進展などに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による教育環境を含めた社会情勢の変化など、これまで以上に、複雑で変化の激しい予測困難な時代を迎えています。

このような社会状況において、今後、想定される変化や課題を踏まえた教育の方向性を示していく必要があります。そこで、本市では、これまでの教育施策における成果や課題、国が示す基本的な方針や教育政策などから次の2つを本計画を策定する上でのコンセプトとしました。

- 生まれてから一生涯を見通した幅広い視点で新潟市民の生活が心身ともに豊かになる教育
- 誰一人取り残さない、一人一人の可能性を引き出す教育

このコンセプトを踏まえ、本市の強みをいかしながら以下のような市民を育むことが重要であると考えています。

- 生涯を通じて学び、夢や希望に向かって挑戦し続ける市民
- 豊かな人間性と高い志をもち、協働しながら新たな価値を創造する市民
- 地域との絆を深め、郷土に誇りと愛着をもって社会に貢献する市民

以上の考え方をもとに、次のように「新潟市の教育が目指す人間像」を示し、その実現に向けて各施策を展開します。

【新潟市の教育が目指す人間像】

しなやかに 世界と未来を 創る人

「しなやか」の言葉は、「柔軟性、弾力性」という意味になりますが、「粘り強さ」「たくましさ」「適応力」という意味も含んでいると考えています。

「世界と未来を創る人」については、グローバルな世界や自分が関わる身近な地域社会を「世界」と表しています。既成概念にとらわれず、主体性と挑戦する気概をもち、新たな価値を創造しながら、しなやかに「世界」や「未来」を創り出していく新潟市民であってほしいという願いを込めています。